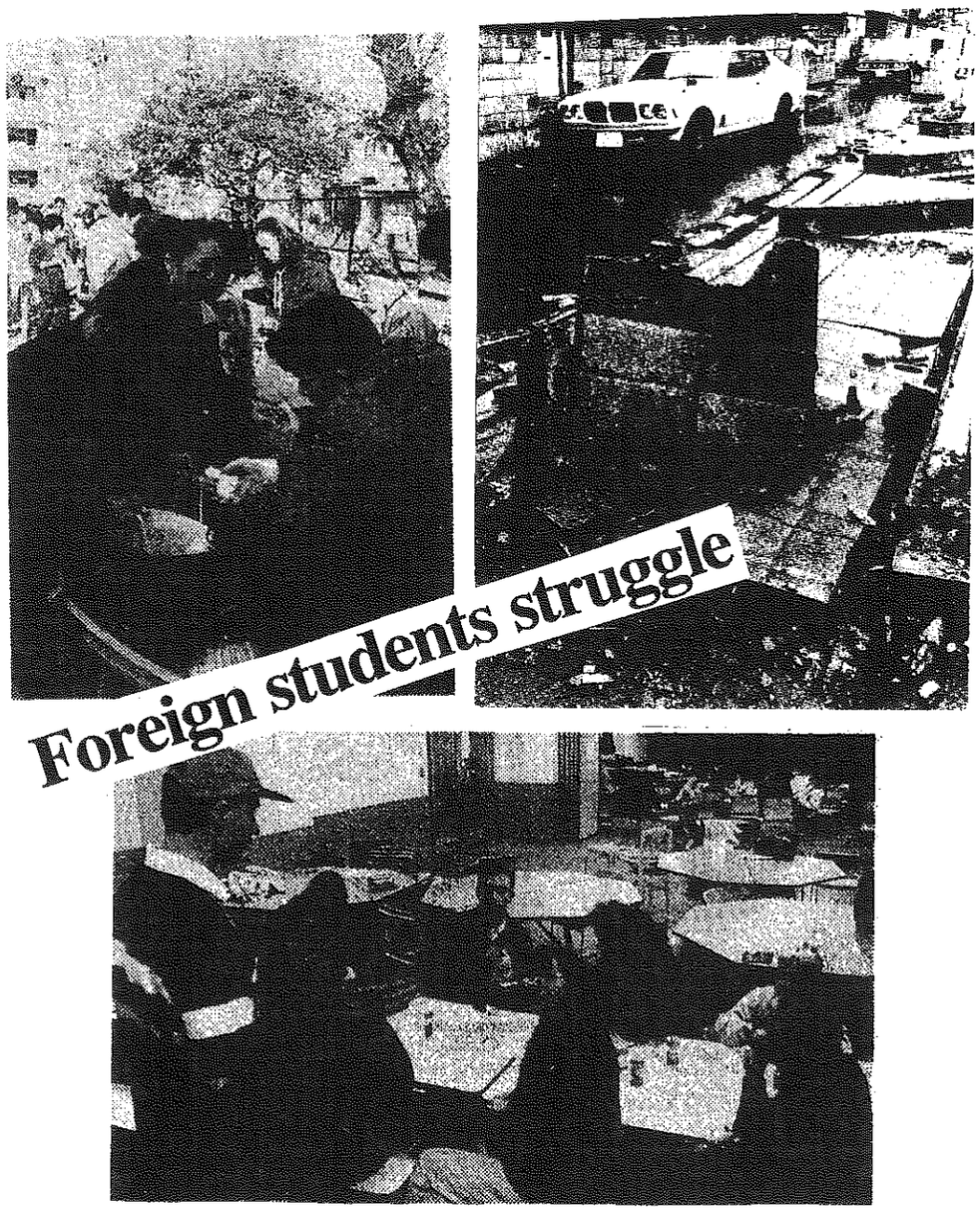
●報告集会● 阪神大震災と留学生・就学生

ー被災の実態、そして救援のために、何ができ、何ができなかったかー



日時　1995年５月２６日(金) 午後６時３０分
会場　神戸学生青年センター・ホール

報告　兵庫県日本語学校就学生留学生等支援の会　１頁
各国就・留学生助けあいの会　１頁
神戸大学留学生センター　２頁
とよなか国際交流協会　２頁
ＹＭＣＡクロスカルチュラルセンター　３頁
神戸留学生友の会　３頁
兵庫県国際交流協会　４頁
内外学生センター（レポートのみ参加）　４頁
中国人留学生連誼会　５頁
外国人学生救援センター　５頁
ＳＥＳＣＯ世界の子ども達に学校を贈ろう会　６頁
日本語学校教職員ユニオン　６頁
さぽうと２１　７頁
関西留学生を支える会　７頁
神戸学生青年センター　８頁
※　報告の途中に留学生のおはなし

質疑応答、討論

＜資料集＞付録　兵庫県内外国人登録市町別人員数　９頁
兵庫県内被災状況調査　１０頁
兵庫県南部地震による外国人留学生の被災状況調査　１１～１６頁
関連新聞記事　１７～１８頁

主催・問い合せ先　神戸学生青年センター　〒657 神戸市灘区山田町3-1-1
TEL 078-851-2760　FAX 821-5878

平成7年5月26日

「兵庫県日本語学校就学生・留学生等支援の会」

報告者:連絡先 事務局長 奥田純子
神戸市中央区東町123-1(コミュニ学院)
TEL:078-333-7720 FAX:078-333-8570

Ⅰ．組織について

会　長　小泉　勇治郎（神戸ＹＭＣＡ学院専門学校）
事務局長　奥田　純子　（コミュニカ学院）
書　記　山田　洋一　（神戸ＹＭＣＡ学院専門学校）
会　計　高橋 有紀子　（コミュニカ学院）
設立発起校　兵庫県下の日本語学校全13校
設 立 日　平成７年２月２８日

Ⅱ．震災による学生の被災状況

・死亡３名(オーストラリア１名、中国２名)　・重症２名　軽症９名
・住居を失った者、３５６名（６２％）
・住居を失った学生のうち７割が、避難所、友人宅などに仮住まい中
・全壊、全焼をはじめ多くの学生が教科書、辞書、学用品を失う。

Ⅲ．活動状況

①援助金２万円の支給
・２２５名に支給（５月８日現在）
・５４名支給予約待ち
②仮設住居の設置
・土地については確保済み（約１３４坪）
・建物部分について・・・・住宅の建設・提供者の募集、援助金の募金活動
③生活状況調査と寄付の呼びかけ
④日本語教育機関自立のための援助

Ⅳ．お願いしたい援助

①援助金２万円の支給待ちの学生５４名のための義援金の募金
②仮設住宅建設のための
・住居（プレハブ住宅、コンテナハウス等）の寄贈
・住宅設置ための資金の寄付

義援金等振込口座
さくら銀行　三宮支店（店番３４２）
口座番号　普通預金６９３５８０６
名　義　留学生・就学生外国人学生義援金
代表　神戸ＹＭＣＡ学院　小泉勇治朗

クボタ

各国就・留学生助けあいの会
アジア・アフリカミュージカルチーム

① 団体名
各国就・留学生助けあいの会
アジア・アフリカミュージカルチーム

② 代表者
久保田 康作

③ 団体所在地
大阪市都島区都島北通り1丁目1番5号
電話 06-653-0622、922-6955、
922-7646、923-6918
FAX 06-653-0652

④ 代表者住所
大阪市西成区天下茶屋東1丁目19番24号

⑤ 活動
1. 就・留学生自らの相互援助活動を助けている
2. 中国語、アラビア語、胡弓、琵琶、朝鮮舞踊、インド舞踊を教えている
3. 毎3回自主公演、95年度は1/15近鉄小劇場ホール、6/19ザ・フェニックスホール、8/28エル・シアター大ホール
4. 海外研修　95年12月エジプト、カイロ大学
5. 震災救援、トラック2台の救援物資を神大、南京街で配る（2回）、避難所で野外「頑張ろうコンサート」を12回開催、被災就学生115名に1人3万円の見舞金を贈呈した

平成７年５月２６日

留学生の被災状況とその対応　　＝神戸大学の場合＝

場所：神戸学生青年センター
報告：神戸大学留学生センター
指導部門　瀬口郁子

＜被災状況＞

1，留学生（552名，43ヶ国）の安否確認
　留学生７名（中国５，ミャンマー２）が犠牲になる．
2，住居の被災状況
　４人に一人弱の留学生が住居を失う（日本国際教育協会へ１１９名申請）．
3，経済的な状況（私費留学生の奨学金，授業料免除，アルバイトによる生活費など）
4，修学・研究に関して，最も厳しい時期（リポート・論文提出，学部・大学院入試等）
5，精神的に不安な状況に陥る

＜対応＞

・合同慰霊祭（遺族の参列---招待）
・留学生緊急援助金
　（日本国際教育協会，神戸市，兵庫県，神戸青年学生センター，その他，ボランティアグループなど）
・神戸大学外国人留学生後援会（会長：留学生センター長）による義援金の募集
　奨学金をもらっていない，被災私費留学生を救済するのが目的
・救援物資（日本国際教育協会，全国国公立大学，高専，企業，個人など）
　留学生センターで配布 --- センター教官の他，学生ボランティアグループ「トラス」
　（Truss Cross-cultural Network in Action）の学生が協力する．
・センター全教官による相談指導態勢
　ネットワーク（地域ボランティア，ＮＧＯ関係グループ，他の相談室など）
　法学部教授の呼びかけにより，心のケアを目的としたテレフォンカードの収集，配布
　（約3500枚）
・学長西塚泰美教授より被災留学生支援に対して寄付（1994年度，Wolf財団賞受賞，50,000$）

事務局担当；粟野真造
(財) とよなか国際交流協会　〒560　大阪府豊中市北桜塚３-1-28
TEL０６－８４３－４３４３ FAX０６－８４３－４３７５

「兵庫県南部地震外国人被災救援委員会とよなか」　活動報告概要　（５）

１、実施してきた活動（１９９５年1月２０日より開始）

1）外国人被災者の緊急一時避難の住居情報の募集と紹介
2）外国人被災者支援の救援金、テレフォンカード、救援物資の募集と活用
3）関係団体との連携・協力（外国人地震情報センター、地元ＮＧＯ救援連絡会議など）
4）広報学習活動（ニュースや報告書の配布、関連集会の開催、問い合わせへの対応）
＊４月１日からは募金のみ受付。とよなか国際交流協会の通常活動で支援活動を継続。

２、活動データー（３月３１日現在）

1）外国人被災者住居情報の募集活動
　問い合わせ受信　　約８００件
　住宅登録　　約７００件
2）外国人被災者への広報・受け入れ活動
　広報　　関係機関に電話・ＦＡＸ　（領事館・大学・ＮＧＯ・行政機関など）
　　多言語でのチラシ作成．　（外国人向けの日本語、英語、韓国朝鮮語、中国語、スペイン語、ベトナム語など）
　外国人からの要請件数　　２２６人（２１カ国　１０８件）
　（中国47、アメリカ合衆国10、韓国8、インド・ペルー各5、ポリビア4、カナダ3、台湾・パキスタン・スリランカ・バングラデシュ・イギリス・在日韓国朝鮮各2、ブラジル・イラン・イエメン・エジプト・チェコスロバキア・ベトナム・タイ・インドネシア各1）
　在留資格　　留学生47、就学生3、就労33、日系7、特別永住2、外交1、定住1、国際業務1、文化活動1、不明12　国籍21カ国
　構成　　単身４８、夫婦２２、親族・友人のグループ３８
　被災場　　神戸市46、西宮市15、豊中市・尼崎市各5、芦屋市各4、池田市3、伊丹市・宝塚市各2、その他3、不明22　3）
3）マッチング（組み合わせ）
　成立　　２９件（約４０人）・・独立住居６、ホームスティ２３
　対応すみ（他紹介・キャンセル含む）　７８件
　調整中・待機　　７件
4）救援金　　５２４５５１３円（２５６件）
　個人提供　　430000円（住居をケアした被災者への緊急生活一時金）
　団体提供　　4164453円（生活費・医療費・母国語情報提供の支援活動費）
　（関係先）外国人地震情報センター、阪神大震災外国人支援連絡協議会、阪神大震災地元ＮＧＯ救援連絡会議、日本在住ベトナム人協会、神戸学生青年センター、兵庫県定住外国人生活復興センター
　内部基金　　500000円（とよなか国際交流協会として、４月１日以降の支援活動での生活一時金やフォローアップ資金）
5）テレフォンカード　　５０９１枚（2297510円相当。全枚数を被災者・関係団体へ提供）
6）物資の募集と送付　　３８７件。これまで６回現地運搬（YWCA、ベトナム難民救援機）
7）協力ボランティア　　のべ約４００人（受付け終了）
8）広報・集会　　３／１９「世界障害者メディア会議～阪神大震災と障害者」
　　３／２５「中間報告会　阪神大震災と在日外国人被災者」

３、組織

名　称　　兵庫県南部地震外国人被災救援委員会とよなか（委員長　葛西芙紗）
　　＊当初は「兵庫県南部地震外国人被災民救援活動実行委員会とよなか」
募金口座　郵便振替「００９１０－１－３８９１９」（名義は上記の通り）
発　足　　１９９５年1月２０日　（４月１日より、とよなか国際交流協会へ引継ぎ）
構　成　　とよなか国際交流協会や地域の国際交流の市民グループ、個人有志で構成。
目　的　　在日外国人は、言語的文化的経済的に、様々なハンディキャップや困難を抱えていることから、阪神大震災での被災外国人に対する支援活動をおこなう。
救援対象　人権・人道・多文化共生の立場から、被災した在日外国人ならだれでも可
（現在）　３月末に解散。４月より、とよなか国際交流協会の実行委員会として継続。

“阪神大震災と留学生”報告会

神戸ＹＭＣＡクロスカルチュラルセンター

（留学生ホストファミリープログラム事務局）

救援活動

1）ホストファミリープログラムに関わる６８２人の留学生の安否と居場所の確認作業

交通網の寸断などでオフィスで作業に入れたのは震災後５日目。１人（中国）死亡。１人（ミャンマー）が重傷。その他の留学生については同国の留学生や縁組しているホストファミリーはもちろん各大学、各国総領事館、各国親善協会などと連絡をとり合い全員の安否を確認できたのは１０日後。居場所については他府県の友人などを頼ったり一時帰国していた留学生も半数以上に上ったため、４月中旬になってやっと確認できた学生も２割あった。

2）救援物資をボランティア、ホストファミリーの方などから集めたり、避難所まで郵送

三宮までアクセスのある留学生にはオフィスまでとりに来てもらったが、不可能な人たちには“ゆーぱっく”で郵送したり、避難所に近いボランティアの人たちに頼んで運送してもらった。（飲料水、ボンベ、毛布、衣類など）

3）「こすもす」情報誌及び、被災状況の「アンケート調査票」を２月20日に全員に発送

避難者へのホームステイや救援物資、奨学金などの情報を満載すると同時に各人の被害状況をアンケートにより適確に調査することが目的。

4）被災した外国人市民や留学生の声を記録する。（6月発行の「ニュースレター」に掲載予定）

生死の境から生還してきたような体験をもつ被災外国市民は国籍や文化の差を越えて、日本人市民と協け合って困難を切り抜けてきた人が多い。共生社会への萌芽を風化させないために震災直後から取材を開始した。（１１人6ケ国）

5）義援金を募る（２月中旬）

４月の大学再開時に神戸に戻ってくる留学生たちの大きな問題は住居と生活資金（アルバイトなど）の確保。しかし日本人にとっても困難な状況のため、留学生活を中断せず、初志を貫徹できるための生活資金の救助が必要。5/25現在で 1,200万円が全国や海外のボランティア団体からも寄せられた。

6）生活資金無利子（一年間）貸付制度スタート（４月中旬）

￥300,000 を上限に一年間無利子で返済してもらうことにより自助努力を留学生にも学んでもらい、より多くの被災留学生に今年だけでなく三年間位は貸付を継続させることができる。

（反省）未曾有の惨事であったこともあり、適確な情報が留学生にも市民にも行き渡らなかったため、ネットワークの作業に手間取ったこと。また救援する側もされる側も共に被災者であり、ライフラインや交通網が寸断されていたことも加わってもっと迅速に対応できていたら…の無念さも残る。

（神戸留学生友の会）

会　　長：藤崎　正敏　　副 会 長：関　　陽　　顧　　問：吉田　俊弘

代表世話人：上田　　理　　事務局長：木本　直志　　事務局次長：大西　史子

事務局：〒５３０　大阪市北区紅梅町２－１６　つたや第３ビル　５０４号

（株）ケイアイエス事務所内

ＴＥＬ：０６－８８１－１５５１／ＦＡＸ：０６－８８１－１５５３

発足：１９８８年

活動内容（平素）：定例会（情報交換）：年約５回

４月：花見の会

８月：交流海水浴（１泊２日、日中友好協会北兵庫支部協力）

12月：忘年会

その他、兵庫県／兵庫県国際交流協会や神戸市への調査訪問等

（奨学金／住居等について）

震災後の活動：

・４月４日：要望書「外国人留学生・就学生の救援について」を兵庫県・神戸市等へ提出。

・今までに当会に参加した学生の名簿などを基に連絡。

連絡がついた約４０名のうち、　住宅の全壊４名　半壊３名　一部損壊７名

アルバイトがなくなった：多数

アルバイトについては、神戸市内（三宮が主）でやっていて、アルバイト先が被災してなくなった／あるいはやめさせられたなどが多い。

当会でアルバイト（大阪府内）を紹介。

26,May,95

阪神・淡路大震災発生時の協会の対応業務

（財）兵庫県国際交流協会

1．緊急外国人県民特別相談窓口の開設

（1）開設1月24日～現在　毎日（土・日・祭日を含む）9:00~19:00

＊協会の入居するビルが倒壊したため開設が遅れた。

（2）相談件数（1/24 ~ 4/23 まで 90 日間）　1,598 件

（3）対応言語　英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語

（4）言語ボランティアの活用　上記4言語（13人）

（5）土・日・祭日の職員の対応（職員2名及びボランティア2～3人）

2．外国人県民への災害関連情報等の提供

（1）News Flashの発行・配布（2月28日から毎週火曜日発行）

①言語は英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、ハングルの5言語で各1500枚ずつ印刷している。

②主要配布先　県下760 ケ所の避難所、在外公館、各国コミュニティ、友好団体など（華僑総会・教会など）外国人学校、県下被災市・町の国際交流協会など。

（2）FM放送による生活情報等の提供

KISS FM により南米外国人に対する生活情報を英語、スペイン語、ポルトガル語で実施（週2回土曜午後8時20分、9時50分）

（3）ホストファミリーによるホームステイの斡旋

News Flashを活用し20ホストファミリーの住所、電話番号、条件等を明示し、斡旋した。

4．NGO等民間ボランティア団体等との連携・活動支援

（1）各地域で被災外国人県民等を救援しているNGO等ボランティア団体の現地を訪問し激励した。

（2）阪神大震災地元NGO救援連絡会議（傘下114 団体）と連携するとともに、活動への支援を実施した。

5．被災外国人県民の義援金・見舞金等の申請手続き等に関するPR及び通訳等の支援

↔ 日本人県民

（財）内外学生センター
神戸学生相談所活動報告

1．被災の実態

A．アルバイトの状況

外国人留学生に対するアルバイト求人件数並びに紹介数は、地震直後の1月期こそ、前年度比80%にとどまったが、2月、3月期はそれぞれ,7% 26%と、大幅に落ち込んだ。これは、一日4時間という作業が、今までデパートの装飾や会場設営、飲食関係等がほとんどであったため、地震によってこれらのアルバイトの依頼がほとんどなくなったことによる。

B．宿舎の状況

外国人留学生用に内外学生センターが確保している「指定宿舎」と呼んでいる部屋は平成6年度で94件あり、その内44件が倒壊、半壊又は居住不可能になり、そこに住んでいた留学生は部屋を失った。
さらに3名の留学生が倒壊した指定宿舎で死亡した。

2．救援活動

○被災家庭の受験生のための宿泊所の確保
全国支部にお願いして被災受験生が大学受験しやすい様に大学近くの宿を確保し、紹介した。

○被災学生の宿舎の確保
大阪、京都学生相談所の協力を得て、宿舎情報を各大学や来所学生に提供。宿舎確保方法は、ポスター、チラシ等を各駅、住宅街に掲示し直接大家さんから連絡をもらう方法と不動産業者が管理している物件の情報をもらい、学生に紹介し、業者で契約する方法。

○紹介結果
学生用に受付した宿舎総数は4月末までに436件。（ホームステイ、ワンルーム等含む）
学生紹介数340名、内留学生は137名。決定数105名、内留学生は43名。

○アルバイトの電話による緊急紹介
本来は来所して自分自身でアルバイトを探してもらうやり方であるが、電車等の交通機関が不通になっていたりしてなかなか来所できる状態でなかったので特にアルバイトを必要としている留学生には電話にて紹介した。ただし、求人が少ないこととほとんどの留学生が地震後帰国したことで電話紹介件数は2,3件である。

○指定宿舎被災留学生に義援金の配給
全国の雇用主協議会等の協力で約250万円集まった。
前述の指定宿舎（神戸学生相談所が紹介、仲介）で全壊、半壊した留学生を対象に1名に5万円ずつ支給。5月現在28名に支給済、140万円。

【神戸地区中国留学生聯誼会】

中国留学生犠牲者一覧表

留学生	9名	研修生	1名
留学生家族	2名	就学生	3名
来訪研究者	1名	就職者とその家族	5名

義援金支給一覧表

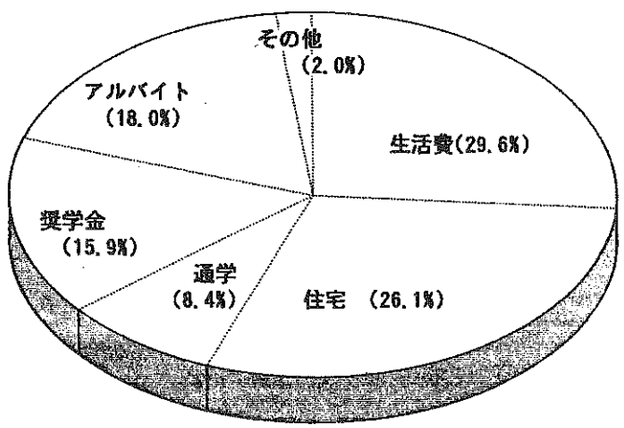
支給額 一律2万円　　1995.5.20 現在

大学名	全壊（全焼）	半壊（半焼）	死亡
神戸大学	37	39	5
神戸商船大学	15	7	1
兵庫教育大学	1	1	
神戸商科大学	8	4	
大手前女子大学	1	1	
神戸外国語大学	1	2	
関西学院大学	14	9	
流通科学大学	15	12	
神戸国際大学	2	5	
聖和大学	1		
神戸女子大学		1	
甲南女子大学	1		
甲南大学		2	
姫路独協大学	1	1	
神戸学院大学	7	8	2
神戸芸術工科大学	2		
英知大学	1	2	
小計	107	94	8
合計			209

▷アンケート集約結果

配付数　209
回答　193

☆ 罹災留学生が現在困っていること



☆ 現在の住宅

被災前と同じ	18.1%
避難場所	30.1%
ホームスティ	21.2%
新しい借家（下宿）	30.6%

外国人学生等救援センター
東京事務局
〒171 東京都豊島区西池袋4-16-21-101
TEL & FAX 03-3590-2026

I　当センターは、阪神大震災後、外国人学生等の救援のために'95年1月25日に設立されたボランティア団体です。

II　活動報告

1．東京事務局

(1) 被害状況のとりまとめ → 関係機関へ逐次報告
(2) 現地被害状況調査
(3) 報告会の開催（週1・2回）
(4) 関係機関とのネットワーク作り
(5) 義援金の募集
(6) フリーマーケット出店（5/20·21、池袋）
(7) 奨学金（月1万円の支給）
(8) 神戸相談室の支援

2．神戸相談室

(1) 第1期（2/11~3/9）
毎土・日　於　神戸YWCA
- 情報提供（見舞金・アルバイト・住宅等）
- 物資、生活一時金（3万円）の支給 → 80名
- 日本語学習の手伝い
- 留学生による炊き出し（2/20 渦が森小、3/11 長楽小）

(2) 第2期（3/25~4/22）
毎土　於　神戸YWCA

(3) 第3期（5/6~継続中）
毎土　2:00~5:00　於　私学会館（JR．元町駅）
TEL.　030・814・0699

(4) 遺族への支払い方法の不満　住宅　アルバイト　問題

III　今後の活動

1．支援体制の質的変化　"もの"の援助から"こころ"の援助へ
2．支援ネットワーク作り

ミズハラ

SESCO（世界の子ども達に学校を贈ろう会）

「阪神大震災」被災外国人留学生・就学生支援活動についての報告

1）1月17日～2月初旬まで ――― 外国人安否情報ホットライン ―――

外務省の後援でルワンダ難民の子ども達に「SESCOウエストポーチを贈ろう」キャンペーンを実施中であったSESCOは、被災地からの強い要望で、関係各機関・団体と協議の上、被災地の救援活動を開始。ルワンダ支援用の物資や、関係団体・会員等を通じて調達した物資を 4トントラック4台に満載し、1月19日、20日に芦屋市役所・芦屋警察署に緊急輸送した。19日、芦屋市役所災害本部からの要望により、SESCO事務局内に電話・フアックスによる外国人安否情報ホットラインを設置。同時に語学通訳等ボランティアを募集。連日百名近いボランティアが被災地のあちこちに貼るビラ・ポスターを製作、また連絡事務などに従事した。安否情報に関しては、2月初旬までに約200名の無事をお尋ねの方に報告できた。

2）2月初旬から末まで ――― 街頭支援会の実施 ―――

2月初旬より、留学生・就学生より生活相談を受けることが多くなり、支援活動の重点を外国人安否情報から被災留学生（私費）・就学生支援に移すことになった。被災留学生・就学生に、教育支援金3万円を支給することに決定、2月11日（祝）・19日（日）・26日（日）、大阪市内の3カ所において、多くのボランティアの協力のもとで、街頭支援会を開催。街頭カウンセリングと街頭募金を行った。被災地を離れた被災学生が何人か相談に訪れ、募金活動に参加するなど、外国人や一般市民の関心も高く、3日間で約370万円の募金が集まった。

3）3月――― 被災留学生（私費）・就学生支援実行委員会の結成 ―――

3月に入って、外国人学生支援活動のいっそうの拡大と効果的運営を期してSESCOを含む8つの団体が集まり、被災外国人留学生（私費）・就学生支援実行委員会を結成、事務局をSESSCO事務局内においた。新聞紙上で「教育支援金」給付の告知をしたところ、月末までに申し込み者が500名を越えた。3月15日、第一回分として先着100名の留学生（私費）・就学生に教育支援金を支給。3月26日、大阪市内の5カ所で、ボランティアによる街頭募金活動を実施した。

4）4月・5月――― 各種イベントの開催

4月15日、第二回分100名に支援金を給付した。4月27日（木）、読売新聞ビル・文化ギャラリー内にて、「阪神大震災」被災留学生支援シンポジウムを開催した。200人の市民、20名以上の留学生・就学生が集まった。第一部では6名の被災留学生・就学生が、被災体験や留学生・就学生の立場、また被災後の日本人観などについて忌憚のない意見や感想を発表した。第二部では、国際交流団体やボランティア、日本語学校関係者などが、それぞれの立場から今後の留学生・就学生の支援について率直な意見を交わした。

5月7日、神戸市北野町の神戸倶楽部内で、神戸市や兵庫県などの後援で被災留学生・就学生支援のためのチャリティーバザールを開催した。当日は天気も良く1300人を越える人出でにぎわい、外国人留学生と市民とが交歓した。

5月15日、第3回分100名に支援金を給付した。支援金の申し込みは5月いっぱい受け付ける予定であるが、申込者は856名（5月18日現在）を数えている。現在各企業の寄付金も受付けながら、可能な限りの支援を継続中である。

日本語学校教職員ユニオン

「阪神・淡路大震災 被災就・留学生救援活動報告」

1月17日の大震災を伝えるおびただしい情報の中、日本語学校の就学生に関する情報は本当に少ないものでした。留学生への義援金支給が発表された時、そこに就学生の存在が全く抜け落ちていることに疑問・怒りの念を覚え、日本語学校教職ユニオンは、結成以来6年間行ってきた就・留学生への相談活動の中でのネットワークを通じ、彼らに対する救援活動を開始することとなったのです。私達日本語ユニオンは、被害に遭った就・留学生の一日も早い学習・生活の場の回復、義援・見舞金支給の差別撤廃、ビザ申請などへの早急な特別措置への必要性を呼びかけるべく以下の活動を行ってきました。

1. 就・留学生への情報提供（ホットライン開設）
   - ビザ申請（更新、再入国など）
   - 住宅（ホームステイを含む）
   - 罹災証明及び義援・見舞金（日振協）受取の手続き
   - 転校、進学
2. 日本語教育振興協会へ被災就学生・日本語教育施設に対する早急な救済措置の要請（別表1，2）
3. 大阪・神戸、東京入管へビザ申請手続き緩和の要請
4. 各教育機関へ就学生の転校・進学の際の学費免除、奨学金制度の拡大の要請
5. 就学生の見舞金支給実現にあたってのカンパ活動

※ ホットライン開設にあたっては、武庫川ユニオンで行われた労働相談の中に組み込ませて頂くことでの活動でした。よって相談の中には外国人労働者（解雇・労災）、日本語教師（解雇）、日本語学校経営者（学生の為の住宅情報、ビザ・転校手続き等）からも数多くありました。まずは2／5～7という期間のホットラインではありましたが、その後も相談活動は続行中です。なお日本語ユニオンは本部が東京にあるため、現在は東京において活動を継続しつつ、全国コミュニテイーユニオンのネットワークを通じ、引き続き武庫川ユニオン（尼崎 TEL 06-481-2341）、ユニオンひごろ（大坂 TEL 06-942-0219）の協力のもとに東京と連絡を取りながらの相談窓口を開いています。

私達日本語学校教職員ユニオンは、日本語教育を通して、就学生をはじめ日本語学習を必要としている外国人、そして（震災救援活動で知り合い、手をとりあった）日本語教師をはじめ外国人問題に取り組んでいる各団体とのネットワークをさらに深め、広げていきたいとおもいます。

日本語学校教職員ユニオン
〒150 東京都渋谷区道玄坂1-19-10
大東ビル4F 東京ユニオン
TEL 03－3770－3471
FAX 03－3770－0874
（担当 岩見）

支援活動団体：社会福祉法人さぽうと21（難民を助ける会）
援助活動資金源：寄付（個人、一般）。募金。バザー。 チャリティー コンサート。
援助活動内容：（窓口、じゃがいもの会）

* ボランティア派遣、現地事務所開設 ＝情報収集、被災者のニーズ、市役所等の要請に対応及び連絡
* 非常食、飲料、その他食料品、医薬品、衛生用品、毛布、衣料品、屋根用ビニールシート、その他雑貨等の支給。
* 豚汁炊き出し隊派遣
* サニーボランティアハウス建設 （西宮ＹＭＣＡ隣接地）
* 被災者向けチャリティーコンサート ３回 （神戸オークラ）

物資による援助総額 4億円 ---実質 10億円相当---

* サニーちゃん基金設立 （外国人被災者向け生活資金貸し付け）（２億円）

条件：長期、無利子、１年間据え置き、２～５年間で返済
合法的な１０年間以下の日本滞在者を優先
日本人の推薦人

実施要領：申請書配布、申請受付及び面談、貸し付け額決定、決定通知、貸付金振り込み

結果：５月１３日現在
面談回数＝８回、面談人数＝２８７人、面談者数 延べ３５人、実数１６人、貸し付け決定総額 ￥７５，８００，０００

以上

サニーちゃん基金実行委員長 林 桂子

面談は6/9,10で締切り

被災留学生への奨学金支援を

緊急募金のお願い

今年１月の阪神大震災では、阪神間に居住する多くの留学生が被災しました。未だに避難所生活を強いられている者もあり、１日も早く勉学に適切な下宿先が提供されることを願ってやみません。
「関西留学生をささえる会」は１９８８年４月に設立され、毎年５名の留学生に毎月５万円ずつ奨学金を援助してきましたが、今年に限ってではありますが、枠をひろげ特に下宿先が倒壊・焼失した留学生を優先させた扱いで、奨学生を４名増員して支援を行うことにいたしました。
そこで、このために必要な奨学金を皆様方より広く募金によって拠金を願っていこうと、皆様にご理解とご協力を切にお願い申し上げる次第であります。何卒よろしく趣旨にご賛同の程をくれぐれもお願い致します。
なお、今年度の奨学生は下記のとおり決定致しました。

'９５ 新規奨学生（４名）

仲 虹 ZHONG HONG	中 国	和歌山大学 大学院 １年 教育学科
曾 昭平 ZENG ZHAOPING	中 国	大阪大学 大学院 １年 工学部
張 小偉 ZHANG XIAO WEI	中 国	大阪外国語大学 ２年 国際文化学科
モハマド・サリムッザマン MD. SALIMUZZAMAN	バングラデシュ	奈良先端科学技術大学院 １年

＜募金及び問合せ先＞

＊関西留学生をささえる会
〒606 京都市左京区一乗寺竹の内町23 関西セミナーハウス内
tel 075 (711) 2115 fax 075 (701) 5256
（担当：[redacted] 竹内、藤井）

募金振込先
郵便振替 口座番号 ０１０００－４－５８８６１
銀行振込 三和銀行 聖護院支店 普通預金
口座番号 ３５１８１５９
関西留学生をささえる会 代表 正田 輝

募金目標 ５００万円

神戸学生青年センターの留学生・就学生支援活動

財団法人 神戸学生青年センター 館長 飛田 雄一
〒657 神戸市灘区山田町3-1-1 TEL 078-851-2760 FAX 821-5878

（財）神戸学生青年センターでは、１月１７日の地震発生以後、１月２５日頃から留学生支援の活動を始めました。そのきっかけは、被災して一旦韓国に帰国した留学生から大学院入学の手続のため再度日本に行かなければならないが、援助をお願いできないかという国際電話が入ったことです。とりあえず、学生センターに来ればなんとかできることをお伝えし、①当面の宿舎の提供およびホームステイ、下宿の紹介、②全壊・半壊した留学生への生活一時金３万円の支給、③そのための募金活動を開始しました。その後、１月２６日からは、ＫＤＤの好意により国際電話の無料サービスも始めました。（３月末まで）

具体的に全壊・半壊した留学生への３万円の支給を２月１日よりスタートさせました。当初は、募金の集まりも悪く学生センターが立て替えるという状況が続きましたが、その後全国から募金が集まり出したので、２月１４日からは範囲を拡大し就学生にも支給することとしました。３月３１日で支給は終了しました。

神戸学生青年センターは、１９７２年の創立以来、場の提供、セミナー（朝鮮史、朝鮮語講座、食品公害・環境問題セミナー、キリスト教史等）の主催を主な事業として行なってきましたが、今回の震災では、留学生・就学生の救援活動を行ないました。今後、１９９６年度からは留学生への奨学金制度を発足させたいと計画しています。

①生活一時金（３万円）の支給（計２３０１万円）

（２月１日より留学生に、２月14日より就学生にも支給。いずれも３月31日まで）

大学・大学院・短大	381
日本語学校その他	386
計	767

中国人	630
韓国人	63
その他	74
計	767

※ その他の国は、台湾（26）、バングラデシュ（13）、インドネシア（5）、以下３人が、オーストラリア、ベトナム、香港、ミャンマー、２人がマレーシア、ブラジル、フィリピン、ニュージーランド、１人がポルトガル、ザンビア、エジプト、アメリカ、トルコ、イギリス、メキシコ、スイス、スリランカ、ネパール。

②ホームステイ、下宿先の紹介

受け入れ希望　１３８件
実際の受け入れ　１５件

③センターでの宿泊（中国人、韓国人、フィリピン人、１月２５日～４月２４日）

平均　約１４名
延べ　１２８０名

④物資の供給

自転車	４８台	カラーテレビ	９台
オートバイ	２０台	テレホンカード	約５００枚
冷蔵庫	３台	その他の物資	
洗濯機	８台		

外国人の勉強にいろいろ、ともかく先のひらけた、
関心があるかまかりたいる人たちが、その
たくさんの人との交流が深まればいいと思う。

県内外国人登録市町別人員数

（平成６年６月３０日現在）

市町	合計	韓国朝鮮	中国	ブラジル	米国	ベトナム	フィリピン	インド	ペルー	英国	オーストラリア	カナダ	ドイツ	タイ	ボリビア	インドネシア	フランス	ノルウェー	マレーシア	ニュージーランド	スイス	その他
総計	99,179	70,411	13,465	3,138	2,265	1,637	1,355	1,066	874	753	414	376	362	355	269	197	171	154	146	131	106	1,497
市部計	95,697	68,770	13,188	2,527	2,172	1,556	1,178	1,064	665	737	370	353	358	319	219	145	167	154	124	105	106	1,383
郡部計	3,482	1,641	277	611	93	81	177	2	209	16	44	23	4	36	50	52	4	0	22	26	0	114
神戸市	44,226	28,008	9,387	548	1,284	742	389	959	184	496	196	183	235	153	76	56	89	124	70	46	80	884
阪神地域	32,281	26,057	2,451	991	675	170	337	73	166	200	138	129	115	89	114	55	73	24	40	42	25	317
尼崎市	14,032	11,970	906	523	81	166	100	6	75	25	15	17	4	31	3	7	5	10	10	15	3	60
西宮市	6,908	5,153	744	106	281	2	54	20	26	75	44	48	60	31	70	11	37	1	6	10	17	112
芦屋市	1,635	754	238	17	168	0	105	40	8	56	26	24	36	14	2	30	27	2	3	4	3	78
伊丹市	3,561	3,051	273	86	25	1	30	0	17	9	9	9	6	5	19	0	0	1	0	3	1	16
宝塚市	3,466	2,968	211	29	82	0	30	6	8	20	24	19	5	2	19	2	3	0	4	3	1	30
川西市	1,670	1,351	58	140	21	0	15	0	20	10	7	6	2	4	1	3	1	5	11	4	0	11
三田市	896	728	17	87	14	1	0	1	12	4	4	1	2	2	0	0	0	5	6	2	0	10
猪名川町	113	82	4	3	3	0	3	0	0	1	9	5	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0
東播磨地域	8,971	6,278	810	869	125	125	217	30	183	21	21	28	2	56	26	38	4	1	13	20	0	104
明石市	2,828	1,908	482	141	42	23	61	10	71	10	3	6	0	26	0	2	1	1	7	6	0	28
加古川市	1,938	1,436	121	197	19	16	76	11	9	2	5	9	1	10	0	1	0	0	0	3	0	22
西脇市	498	424	10	20	10	1	7	1	19	2	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1
三木市	643	504	44	23	13	0	27	0	0	2	3	4	0	13	0	3	0	0	2	2	0	3
高砂市	1,286	1,175	12	40	11	10	15	1	4	3	3	3	1	2	0	3	1	0	0	0	0	2
小野市	410	259	15	68	5	21	7	0	11	0	0	0	0	2	0	17	0	0	0	0	0	5
加西市	540	154	64	195	4	52	5	5	10	0	1	3	0	0	20	3	0	0	0	0	0	24
吉川町	61	4	1	40	4	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
社町	188	81	39	16	7	0	2	0	27	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3	8	0	3
滝野町	61	31	2	12	3	0	1	0	7	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2
東条町	73	11	4	44	0	0	3	0	5	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	2
中町	41	15	0	12	2	0	0	0	8	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
加美町	6	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
八千代町	17	3	2	10	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黒田庄町	14	6	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0
船美町	120	92	4	9	0	2	6	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
播磨町	247	175	10	35	5	0	4	2	8	1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
西播磨地域	11,839	9,257	652	410	118	600	203	4	275	21	34	21	6	14	16	24	3	5	22	6	1	147
姫路市	9,870	8,007	547	218	87	517	167	4	147	17	28	12	6	12	3	6	2	5	5	3	0	77
相生市	413	392	1	8	2	0	3	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
龍野市	155	55	13	33	5	4	3	0	34	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
赤穂市	285	215	11	30	3	0	0	0	8	1	2	1	0	1	4	1	1	0	0	1	0	6
家島町	36	23	2	4	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
夢前町	72	49	6	7	1	0	3	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
神崎町	14	3	6	0	0	0	1	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市川町	40	20	1	7	0	7	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
福崎町	191	68	10	16	2	28	6	0	10	0	0	0	0	0	1	0	0	0	11	0	0	39
香寺町	77	37	4	16	4	6	0	0	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大河内町	5	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新宮町	49	27	0	9	2	0	1	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
揖保川町	51	35	0	8	1	0	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
御津町	110	107	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
太子町	202	97	26	16	0	32	5	0	21	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1
上郡町	73	53	6	3	2	5	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
佐用町	57	27	2	7	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	2	11	0	0	4	0	0	1
上月町	7	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

☆ 県内留学生被災状況調査

１９９４年３月６日　現在

	神戸	神戸商船	神戸市外	神戸商科	甲南	甲南女子	神戸学院	神戸芸工	神戸国際	神戸女子	神戸薬科	流通科学	神医療短	神学女短	市内大学	市内専門学校	市内合計	市外大学	市外専門学校	県内合計
留学生数	552	53	31	72	36	34	73	53	50	6	1	125	0	13	1,104	362	1,466	426	2	1,894
死亡者数	7	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	－	0	10	1	11	0	0	11
負傷者数	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	－	0	2	5	17	0	0	17
一時帰国者数	101	8	8	27	22	4	20	9	1	不明	0	45	－	10	255	74	329	38	1	368
居住不可能者数	94	32	5	9	5	10	19	10	20	1	0	39	－	2	246	185	431	64	1	496
主たる避難先	HスティＨ 友人宅 避難所 一時帰国	一時帰国 学生寮	友人宅 避難所 一時帰国	友人宅 避難所 留学生会館 一時帰国	HスティＨ 避難所 一時帰国	友人宅 避難所 一時帰国	一時帰国	友人宅 下宿等 一時帰国	HスティＨ 友人宅 避難所 下宿等 一時帰国	友人宅		HスティＨ 友人宅 避難所 一時帰国		友人宅		HスティＨ 友人宅 避難所 一時帰国 その他				
支援事項	レジデンス１００名（３人部屋） 義援金募集（学内外援会）		下宿の斡旋	２・３月に１０万円支給 ４～６月生活補助金及び貸付	下宿の斡旋 編入先紹介	見舞金支給	見舞金（１０万・半額以上）支給 学生寮への収容・家財預り	学内仮設住宅（５０人） 見舞金（５万円）支給 学費減免	移転費貸付（最高１０万） 学費減免検討中			一時金３０万円支給 宿舎確保５０人 後援会費等免除		学費減免 入寮費免除						

※　死亡 …… 中国８人（神大５人　神院大２人　文化服装学院１人）
　　ミャンマー２人（神大）　　アルジェリア１人（商船大）

兵庫県南部地震による外国人留学生の被災状況調査

区分	大学等名	①留学生数	②死亡者数	③負傷者数	④一時帰国者数	⑤居住不可能者	⑥主たる避難先	⑦現況等	⑧被災留学生のために大学等で対応している支援事項等	⑨被災留学生の支援に関する要望事項等
大学	兵庫教育大学	40	0	0	2	2	イ・カ	・被災地域に居住する留学生が少数のため，被災留学生は皆少である。しかし，地震による心理的不安を訴える留学生が，程度の差はあるが，少なからず存在する。	・被災地域に居住する留学生の一時避難のため，本学学生寄宿舎の空室（2室）を一時的に貸与した。 ・本学学生寄宿舎に居住している留学生の部屋に，他大学等の被災留学生等が一時的に避難してきたため，寝具一式を貸与した。	
	神戸大学	552	7	1	101 現在95	94	ア・イ・ウ・エ・オ・カ・キ（本学学舎）	・震災後，帰国者が多く，宿舎等の被災状況の未確認者（80人）が多い。 ・ホームスティの受入れ家庭の件数は多いが，希望する者が少ない。（恒常的に居住する宿舎を希望している。） ・下宿・アパート等の物件が少ない。	・留学生専用宿舎の単身室を2人用として利用し，100人分を確保。その他被災学生（留学生を含む）のために学生寮200人分を確保 ・本学外国人留学生後援会から義援金の募集 ・下宿・アパート等の依頼（新聞社）及びあっせん ・被災留学生に対する生活，住宅その他震災に起因する諸問題に関する相談指導　・救援物資の支給	・恒常的な宿舎の確保 ・アルバイト先が被災したことにより収入を失った者が多いため，奨学金等の給付など特に私費留学生のための長期的な経済支援が必要
	神戸商船大学	53	1	0	8	※ 32	カ・キ（学生寮）	・震災後，帰国者が多く，被災状況がはっきりしない。 ・ホームスティの受入れ家庭の件数は多いが，希望する留学生が少ない。・下宿・アパート等の物件が少ない。	神戸留学生会館 3人 西宮市営住宅 1人 民間アパート 3人	※32人のうち，一時帰国 8人 知人・友人の家 7人 学生寮 10人 新住民決定 7人
	神戸市外国語大学	31	0	0	8	5	イ・ウ・カ	・震災後，授業が終了したので，全員に連絡をとるのが難しく，被災状況がはっきりしない。	・留学生からの相談の対応　・下宿のあっせん ・各団体からの留学生への援助の窓口事務	
	神戸商科大学	72	0	1	27	9	イ・ウ・エ・カ・キ（本学セミナーハウス）	・ホームスティの受入情報は多かったが，通学できない所が多く，希望する者がなかった。 ・下宿・アパート等を探しても，留学生は断られる。	・奨学金が10万円未満の留学生に対し，生活補助金の支給を2月・3月分として行う。 ・奨学金の途絶える4・5・6月について生活補助金の支給及び貸付けを行う。 ・新聞等を利用し，宿舎・ホームスティを募集	・留学生用宿舎
	姫路工業大学	25	0	0	0			・被災地域外に居住している者が多かったため，被害なし		
	芦屋大学	2	0	0	2	0		・震災直後は，東京の親戚の家に避難	・避難先での研究活動を続行させるため，東京の教科書センターを紹介	
	英知大学	29	0	0	5 うち4名戻ってきた	5	イ・カ・キ（留学生寮）	・震災後，全留学生に連絡をとった結果，5人の崩壊・火災の判明，その他室内外の損傷等が多く，一時帰国した学生もあり，留学生同志の連絡と再入国時の連絡を密にとるよう，呼びかけている。 ・4月入学予定者のうち2人が崩壊被災している。	・留学生専用寮の単身室を2人用にして応急対応 ・授業料については現在半額減免しているため，見舞金を支給	・アルバイト先の紹介

区分	大学等名	①留学生数	②死亡者数	③負傷者数	④一時帰国者数	⑤居住不可能者	⑥主たる避難先	⑦現況等	⑧被災留学生のために大学等で対応している支援事項等	⑨被災留学生の支援に関する要望事項等
大学	大手前女子大学	29	0	0	6	2	イ・カ	・大阪府下の居住者が多いので，被害は少ないが，連絡がとりにくいため，詳細な被災状況は判明していない。	・被災留学生には，授業料の半額免除を行う。 ・住居その他については，留学生やその保証人から申出があれば，対応することとしている。	
	関西学院大学	215	0	0	約15	39	イ・オ	・下宿・アパート等の物件が少なく，直接の被災者だけでなく，新入生にも影響がでている。	・学費減免措置（来年度者学期分） ・被災特別援助金制度（5万円を援助基本額とし，被災状況，困窮度に応じて20万円を上限に支給） ・各自治体，関係団体等からの住宅情報等の入手	・アルバイト先が被災し，予定していた収入を失った者が多く，長期的な経済支援（奨学金）が望まれる。
	甲子園大学	1	0	0	0	0				
	甲南大学	36	0	0	22	5	ア・ウ・カ	・取米大学の協定校からの受入れプログラムを1月末で中止したため，大半の留学生が帰国した。 ・他校への編入者：8人 ・居住不可能者の研究生2人は，現在，住居が確定した。	・下宿の紹介 ・編入先の紹介と手続き	
	甲南女子大学	34	0	0	4	10	イ・ウ・カ	・下宿・アパート等の物件が少ない。	・見舞金の支給	
	神戸学院大学	73	2	0	20	19	カ イ・ウ・キ	・震災後，帰国者や知人宅に行った者が多く，連絡がつかないので，被災状況がはっきりしない。 ・ホームスティの受入れ家庭の件数は多いが，希望する留学生が少ない。	・家を失った者の本学留学生寮への収容と家財道具の一時預かり ・半壊以上の被災者に対する見舞金の支給（10万円） ・死亡者の遺体引取り，葬儀費用，遺族の滞在費用の負担と見舞金（7万円）の支給	・家屋の被害は少ない（半壊にならない）が，家財の被害が大きい者に対しても支援が欲しいという要望が留学生からあった。 ・宿舎やアルバイトの確保
	神戸芸術工科大学	58	0	0	9	10	イ・オ・カ	・一時帰国者で被災状況のはっきりしない者がいる。 ・大家との連絡がとれなかったり，大家自身がアパートの取壊しを決めかねていて，今後の居住の可否の判断ができない。	・本学被災学生のための仮設住宅をキャンパス内に確保（50人収容） ・住居の全・半壊，全・半焼の学生に対して見舞金の支給（1万円）及び学費の減免措置	・安い下宿・アパートの提供（社員寮の提供等）
	神戸国際大学	50	0	0	1 14名中13名は帰ってきた	20	ア・イ・ウ・オ・カ	・震災後，一時帰国者が多かったが，2月中旬頃から少しずつ日本へ戻っている。 ・神戸に居住する者は，アルバイトがなくなり，収入がない。 ・下宿・アパート等の物件が少ないし，また，入居時の敷金・礼金が支払えない者が多い。	・下宿等の移転費用の一部を貸付（最高10万円）卒業時までに返還。 ・授業料の減免は，日本人学生と同様に検討中	
	神戸女学院大学	1	0	0	0	0				
	神戸女子大学	6	0	0	不明	1	イ	・居住不可能者は，転居先を探している。		

区分	大学等名	①留学生数	②死亡者数	③負傷者数	④一時帰国者数	⑤居住不可能者	⑥主たる避難先	⑦現況等	⑧被災留学生のために大学等で対応している支援事項等	⑨被災留学生の支援に関する要望事項等
大学	神戸薬科大学	1	0	0	0	0				
	聖和大学	16	0	0	3	10	ア・イ・カ・エ・オ・カ（神戸学生青年センター）	・震災後に帰国した4人のうち，3人がもどってきて，もう1人は近日中にもどる予定。現在は，震災後転居先も定まり，残の2人が帰国中である。 ・ホームスティは，短期間のため転々と住所が変わる。なるべく落ち着いて住めるところを求めるため，希望者は，少ない。 ・下宿・アパートの物件は少なく，アルバイトもできないため，経済的にはこれからが大変である。	・住宅等の紹介 ・住宅が全壊した者に弔慰金を支給（基準は，アドバイザー教師の助言による。） ・授業料の減免は，申請受付中である。	・居住不可能者に対する住宅の供給
	園田学園女子大学	2	0	0	0	0		・被災地域外（大阪）に居住のため，被害がなかった。		
	宝塚造形芸術大学	1	0	0	0	0				
	姫路獨協大学	30	0	0	3	3	ア・イ・カ	・被災地に居住していた留学生―7人（一時帰国：3人，知人宅：2人，自宅：2人）	・後期定期試験を受験するために通学不可能な被災留学生2人には，本学近くのホストファミリーを紹介した。（滞在期間：1月23日～2月2日） ・災害特別援助措置として，①学費免除（家屋が半壊以上の場合――前期授業料を免除），②学費延納（家屋の被損により家計が困窮している場合――前期授業料を前期末まで延納可）	
	兵庫医科大学	6	0	0	0	0		・震災にあったが，特に被害はなかった。		
	武庫川女子大学	11	0	0	1	3	イ	・留学生がすぐ転居できるような安くて条件の良い物件が少なく，またアルバイト等による収入の目途が立たないため，保証人宅等で気兼ねしながらの生活を送っている	・未定	
	流通科学大学	125	0	0	45	39	ア・イ・ウ・カ	・生活できないため，45人が帰国 ・住居の必要な者は30人（内訳…ホームスティ5人，友人宅9人，避難所等11人，物件紹介5人）	・特別奨学一時金の支給（20万円） ・納付金の1年間延納 ・留学生用宿舎の確保（30人分） ・教育協力会費（3万円）と教育後援会費（1万2千円）の免除	・家賃・敷金の安い下宿物件の確保 ・アルバイトの紹介 ・授業料の全額免除又は奨学金の支給 ・教科書や生活必需品の支給

（注） 【③欄の負傷者】…軽傷者を除く。 【⑤欄の居住不可能者】…震災のため，住んでいた住居が居住不可能となった留学生
【⑥欄の主たる避難先】…ア：ホームスティ，イ：友人・知人の家，ウ：兵庫県・各市などの避難所，エ：留学生会館，オ：下宿・アパート等，カ：一時帰国，キ：その他（宿舎等の提供）

兵庫県南部地震被災状況調査

区分	大学等名	①留学生数	②死亡者数	③負傷者数	④一時帰国者数	⑤居住不可能者	⑥主たる避難先	⑦現況等	⑧被災留学生のために大学等で対応している支援事項等	⑨被災留学生の支援に関する要望事項等
短期大学等	姫路短期大学	1	0	0	0	0		・姫路市在住のため，被害なし。		
	関西女学院短期大学	1	0	0	0	0				
	神戸学院女子短期大学	13	0	0	10	2	イ	・身体の安全は，全員確認済，ただし，帰国者多数のため，住居については，外観でしか確認できていない。	・留学生に限らず，すべての被災学生に授業料の減免，学生寮の入寮費免除等を実施	
	産業技術短期大学	9	0	0	0	0		・学生寮の居住者8人，近隣のアパート居住者1人共に被害なし。		
	姫路学院女子短期大学	2	0	0	1	0		・被災地域外に在住のため，被害なし。		
	明石工業高等専門学校	5	0	0	0	0		・留学生全員学寮に入居しており，被害なし。		

（注）【③欄の負傷者】…軽傷者を除く。　【⑤欄の居住不可能者】…震災のため，住んでいた住居が居住不可能となった留学生
【⑥欄の主たる避難先】…ア：ホームスティ，イ：友人・知人の家，ウ：兵庫県・各市などの避難所，エ：留学生会館，オ：下宿・アパート等，カ：一時帰国，キ：その他（宿舎等の提供）

兵庫県南部地震による外国人留学生の被災状況調査

区分	大学等名	①留学生数	②死亡者数	③負傷者数	④一時帰国者数	⑤居住不可能者	⑥主たる避難先	⑦現況等	⑧被災留学生のために大学等で対応している支援事項等	⑨被災留学生の支援に関する要望事項等
専修学校	ビジネス専門学校ナビック国際カレッジ	2	0	0	1	1	ウ	・震災後2人とも一時帰国し，3月1日日本にもどってきたが，住居がなく，困っている。	・授業料を免除（家屋全壊10万円，半壊5万円）	
	駿台ホテル観光事業専門学校	3	0	0	0	1	ウ	・同じ留学生の友人宅へ避難している者や大阪に住んでいる者もいる。 ・居住不可能者は，今年度卒業予定者のため，卒業式まで避難所にいるとのこと。	・全学生に対し，被害状況に応じて授業料，入学金等の免除あり。	
	芦屋芸術情報専門学校	15	0	0	0	5	イ・エ・	・電話のない学生が多く，本人からの連絡待ちのため，なかなか連絡がつかない。 ・下宿・アパート等の物件が少ない。	・見舞金の支給・学費の減免制度 ・下宿・アパート等の紹介	・一時帰国するための費用の援助 ・下宿・アパート等の引っ越しや家賃等の援助
	御影保育専門学校	1	0	0	0	1	イ	・下宿・アパート等の物件が少なく，4月開講後の住居に困っている。		
	神戸服装専門学校	4	0	0	1	2	イ		・留学生の場合，授業料1/3免除にしている。	
	塩原学園和洋裁専門学校	1	0	0	1	0				
	専門学校神戸文化服装学院	46	1	0	8	27	イ・ウ・オ・カ	・下宿・アパート等の物件が少ない。	・下宿・アパートを探しより，見舞金の支給を行っている。	・留学生のための安価な宿舎の提供
	クラーク国際専門学校	43	0	12	13	30	イ・キ（学校寮）	・学生本人が下宿等を探している。 ・学校寮に受け入れた学生を含めて，全ての学生の住居の確保ができるよう努力している。（一時帰国者を除く）	・下宿・アパート等の紹介 ・学校寮に10人分確保し，受け入れた。 ・授業料については，延納を認めている。	・現在，住居の確保ができている学生でも一時的に友人，知人宅に避難している学生が多いので，住居に対して支援していただきたい。
	神戸電子専門学校	4	0	0	0	3	イ・ウ	・震災後，安否，住居の状況等は把握したが，その後の状況がつかめない学生が1人いる。	・授業料の減免 ・下宿・宿泊先のあっせん	
	東亜経理専門学校 神戸駅前校	63	0	0	18	51	イ・ウ・カ	・下宿・アパート等の物件が少ない。	・学費の一部減免（具体的に検討中）	・留学生専用の住居の確保
	神戸YWCA学院専門学校	47	0	0	10	18	イ	・3月1日からの授業再開に伴い，23人が日本に戻る。 ・下宿・アパート等の物件が少なく，避難生活をしている学生が多い。 ・震災により，進学先を決定する等，進路先に不安を感じている学生が多い。	・宿舎確保　・奨学についての情報指導 ・生活面での個別指導（食事や風呂の提供を含む） ・見舞金支給及び案内（兵庫県日本語学校連絡会による救援センター設置） ・神戸YWCA救援センターによる支援	・留学生の宿舎確保（在校生及び大学等へ進学する学生に対して） ・見舞金を被災者全員に支給してほしい，（全・半壊等だけでなく，ライフラインを切断された被災者にも） ・留学生の精神的ケアも考えていかなければならない。
	神戸YWCA学院専門学校	135	0	3	23	47	ア・イ・ウ・カ	・震災後，帰国した者の被災状況がはっきりしない。	・宿舎確保（学生寮10人分を確保） ・授業料減免処置の実施	・留，就学生の宿舎確保と県市に要望している。

（注）【③欄の負傷者】…軽傷者を除く。　【⑤欄の居住不可能者】…震災のため，住んでいた住居が居住不可能となった留学生
【⑥欄の主たる避難先】…ア：ホームステイ，イ：友人・知人の家，ウ：兵庫県・各市などの避難所，エ：留学生会館，オ：下宿・アパート等，カ：一時帰国，キ：その他（宿舎等の確保）

兵庫県南部地震による外国人留学生の被災状況調査（集計表）

(平成7年3月6日現在)

大学等名	大学等数	① 留学生数	② 死亡者数	③ 負傷者数	④ 一時帰国者数	⑤ 居住不可能者数
大学	26 校	1,499 人	10 人	2 人	282 人	308 人
短期大学等（高等専門学校を含む。）	6 校	31 人	0 人	0 人	11 人	2 人
専修学校	12 校	364 人	1 人	15 人	75 人	186 人
合計	44 校	1,894 人	11 人	17 人	368 人	496 人

(神戸大学留学生課作成)

【死亡した外国人留学生の国籍】

国籍別　中国：8人（神戸大学：5人，神戸学院大学：2人，専門学校神戸文化服装学院：1人）
ミャンマー：2人（神戸大学：2人）
アルジェリア：1人（神戸商船大学：1人）

95.3.28 神戸

残された留学生

復興へ

第一部 家はどこに

19

神戸国際大学で経済学を専攻する中国人女子学生(三)は、三月半ば、神戸・元町の内外学生センター神戸学生相談所を訪れた。

中国から日本にきて五年。ずっと住み続ける中央区のアパートが半壊。避難所や保証人宅などを転々とし、帰ってきたところに立ち退きを求められた。1DKで家賃三万四千円。私費留学生に不可欠なアルバイト先に近く、便利だった。

地震で多くの安い物件は被害を受けた。木造は怖い。通学やアルバイトを思えば中央区に住みたい。マンションに移るには六万円は必要だろうか、友人のいる尼崎に移ろうかと考える。

「住むところが決まらず不安。しばらくはアルバイトもできないので、生活面の支援もほしい」と留学生は訴えた。

関西学院大学理学部の大学院生劉永亮（リョウ・ヨンリャン）さん(三〇)は、宝塚市の文化住宅が全壊、妻と避難所で一カ月半過ごした。二度申し込んだ仮設住宅は落選、定員割れの豊中市の公団住宅に申し込み、三月から移り住んだ。

□ □

約十八万棟の建物を全半壊させた震災は、学生の下宿も奪った。

三月十日、大学や自治体などで構成する兵庫地域留学生交流推進会議の緊急運営委員会が神戸市で開かれている。席上、留学生の被災状況をまとめた資料が配られた。大学、短大など四十四校の留学生千八百九十四人のうち、四百九十六人が居住不可能という数字が示されていた。

震災後、各大学や機関は支援に乗り出している。

下宿なくし支援を要望

神戸国際交流協会は、西区の学園都市にある留学生会館の単身者用の部屋に二段ベッドを置いて二人部屋にし、入居者を募集した。内外学生センターも新聞折り込みで、部屋の提供を呼び掛け、ホームステイなど四百六十室を集めた。

だが、なかなか実を結ばない。応募は定数の半分以下だった交流協会は「遠う国同士の相部屋は、文化や宗教などの問題もあり、現実的でなかった」と受け止め、学生センター所長の藤崎伊左恵さんは話す。

「部屋もなかなか近くにはない。大学に遠いことや文化の違いによるトラブルを予想して留学生はホームステイを敬遠しがちだ。友人宅や避難所で過ごす人もいて、留学生の下宿探しはこれからが大変だ」

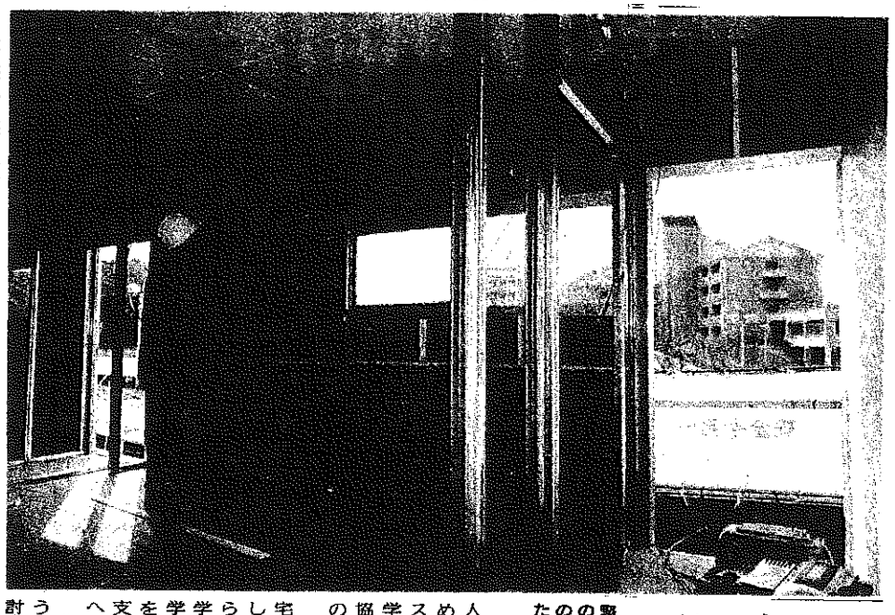
□ □

日本人学生ら全体の下宿探しについて、神戸大学厚生課長の田北恵治さんは「マスコミに『部屋がない』と何度も載ったため、在学生は自己防衛し一段落した」のでは」と見ている。

同大学は、大学生協、民間仲介業者のほかOB二万人にも依頼、約四千室を集め、二月下旬からあっ旋をスタートさせたが、訪れる学生はまばら。全国大学生協連合会の建てる仮設寮への応募も低調だからだ。

そんな中、留学生は、自宅がなく、経済的援助に乏しいなど、防衛の手段も限られる。十日の兵庫地域留学生交流推進会議では、各学校から「安い住宅の提供を」「奨学金など経済的な支援が必要だ」など、行政への要望が相次いだ。

復興に向けた県の「ひょうごフェニックス計画案」討議資料には、留学生センターの建設などが挙がる。だが、新たな支援策は新年度予算には計上されていない。「一時帰国中の人もおり、新入生の数もまだはっきりしない。もう少し見極めないと動けない」と、県国際交流課は話した。



緊急に建てられた仮設の学生寮。日本人学生の下宿探しは一段落したというが＝神戸市内

95.3.28 神戸新聞

変わった日本人観

留学生の震災100日

95.4.26. 朝日

阪神大震災は海外からの留学生たちにも大きな打撃を与えた。兵庫県などの調べでは、県内の留学生千八百九十四人のうち、死者十一人、負傷者十七人を出し、四百九十六人が住んでいるところを失った。言葉のハンディや身寄りがないなどの問題を抱えながら、不安な避難生活を送ってきた。二十六日で地震から百日。彼らの中で日本や日本人に対する見方が、わずかに変わったという。留学生たちが見た大震災とは――。

金哲松さん

洪興子さん

「思いやりに感激」「不信感生まれた」

神戸大大学院生の金哲松さん(四〇)＝中国＝は、神戸に来て二年間住み慣れた文化住宅が全壊した。妻子を連れて、近くの小学校に避難した。

避難所では、日本人による差別を恐れ、日本語のできない妻子に「口を開くな」と言い聞かせた。避難生活が長引けば、ストレスが自分たちに向けられるかも知れない。

「もう留学を続けることは無理だろう」と帰国を決意した。

震災から四日目。関西空港へ出発する前、金さんはついに、避難所で隣に寝ていた人に自分の国籍を明かした。

「えっ、そうだったの」と、周りの人が集まってきた。

「遠い国から来てるのに、大変ね」「こんな目に遭うなんて」。口々に温かい言葉をかけられ、金さんは体が震えるほど、感激したという。大阪でも知人に迎えられ、久しぶりの入浴など、心づくしの歓待を受けた。

北京の実家で一カ月過ごし、金さんは再び神戸に帰ってきた。「この地で勉強を続けようと思い直した」

関西学院大学社会学部四年生の洪興子さん(二九)＝韓国＝は地震直後、地下水が出ている家の蛇口に「ご自由にお取りください」と札がかけられているのを見た。住民たちは静かに列をつくり、後の人を気遣って大きなバケツにも少しかくんでいなかった。

「韓国と日本の差は経済力の違いで、いつか日本を追い越せると思っていた。けれど今度の震災で、他人を思いやる多くの日本人の姿を見て、考えが変わった」という。

大学に入学した四年前と昨年暮れ、西宮市内で引っ越しをした。二回とも「外国人には貸せない」と断られた。自殺して社会にアピールしようかとも思い詰めた。

大震災が起きたのは、そんな時だった。

「身寄りがないはず」と心配して、八時間も歩いて様子を見に来てくれた友人もいた。「多くの人の温かさに触れて、自分の中にあった日本人像が変わった」

神戸市長田区で被災した中国人留学生の男性(三五)は、大家の日本人男性と崩れかけた家屋の片付けをしていて、それまでには感じなかった不信感が芽生えた。

「『そこの荷物を取ってくれ』と言われてびっくりした。今にも倒れそうな柱の下を指さしていたからだ。危ないからいやだと言っても、『大丈夫、大丈夫』と言われ、断れなかった」。危険な場所での作業はすべて留学生に任せていると感じた、という。

◇

被災留学生を支援している神戸学生青年センター（飛田雄一館長）は二月から三月にかけて、自宅が全半壊した学生に生活一時金として三万円を支給したが、対象者は七百六十三人に上った。

THE JAPAN TIMES • FRIDAY, FEBRUARY 17, 1995

Foreign students struggle

Cheap housing, part-time jobs almost nonexistent

By REIJI YOSHIDA
Staff writer

KOBE — The impact of the Great Hanshin Earthquake has been especially harsh on foreign students here, especially those from other Asian countries.

Low-rent housing in Kobe is still hard to come by, and there are very few part-time jobs, which many foreign students had relied upon heavily for income.

In addition, many of those who recently came to Japan are having a hard time finding information about relief services because of the language barrier.

The Kobe Student Youth Center in Nada Ward, about 1 km away from Kobe University, has so far accommodated about 80 foreign students who lost homes in the quake.

"All the houses they were staying in were destroyed by the quake" said Yuichi Hida, director of the center.

When people from other Asian countries come to Japan to study, they live in apartments that are relatively cheap, in the ¥30,000 to ¥40,000 range, said Takumi Kuwata of the Overseas Students Section at Kobe University. But these old, wooden buildings were severely damaged in the quake.

About 700 lodging rooms in that price range had been set aside for students at Kobe University. But most of them collapsed and there are only 100 rooms left, said Keiji Takita, director of the school's welfare section.

Takita said the university is trying to find more housing for students. But competition for low-rent apartments is expected to be fierce.

The National Federation of University Cooperative Associations estimated that 5,000 of the approximately 15,000 Japanese and foreign students belonging to 10 association member universities and living alone in Hyogo Prefecture lost housing.

"The Japanese people suffered because of the quake as well. But (life after the quake) is harder particularly for us because we don't have relatives to rely on in Japan, and we also don't have as much money as Japanese," said Yu Li from China, a graduate student at Kobe University who is now staying at the center.

The financial burden of renting a new home will be a big obstacle for foreign students. In the Kansai region, an advance deposit of about 10 times one month's rent is required before moving in, Kobe University's Takita said.

Most foreign students work part time to pay their rent while studying. But because of the quake, such jobs are almost impossible to find in the region now, said Yu, 38, who came to Japan four years ago to study the nation's industrial policies.

At the time of the quake, he lived on the second floor of a house in Nada Ward, with his wife and 8-year-old son.

The house, which was relatively old, collapsed immediately, he said. Because it was still dark, they could not salvage any belongings, not even shoes or clothes, he said.

After spending five days at a temporary shelter, Yu sent his family back to China.

He applied to a lottery for temporary public housing, but did not win. He is waiting for the second drawing, but it will be extremely difficult to win a place given the huge number of people applying, he said.

Many at the center said they do not know how they will be able to find housing if they cannot win the lottery.

Yu, who speaks Japanese fluently, also said many foreign students with little Japanese are having a tough time gathering information on quake and relief activities.

Volunteer English interpreters are available at many municipal offices, but there are few Chinese interpreters, even though Chinese make up the second largest group of foreigners registered in Kobe.

Koreans make up the largest number of foreigners in the region, totaling 27,946, followed by Chinese at 9,464 and Americans at 1,279, according to the municipal government.

Kobe city officials said that English and Chinese interpreters are available at the city governmental office and they can be contacted by telephone.

The city government will send interpreters to ward offices if they are requested to do so, but so far requests for foreign interpreters have occurred only infrequently and many ward offices cannot have volunteer interpreters staying at their offices all day, the official said.

Qin Qing Hong, a Chinese taking shelter at the center, came to Japan on Jan. 13, only four days before the quake.

Although she waited in line at a nearby municipal office for hours to obtain a "risai shomei" certificate, a document showing the holder suffered damage in the quake, she could not fill out the form because she could not speak Japanese and could not answer the municipal officials' inquiries.

The risai shomei is often required when applying for benefits such as rent-free or low-rent housing.

Foreign students whose accommodations collapsed are being offered ¥30,000 in cash at the Kobe Student Youth Center. A risai shomei is required.

Based on availability, the center finds host families and lodgings.

The center is looking for host families or other available accommodations. Donations are also being accepted. For information, contact the center at (078) 851-2760.

Chinese in Kobe rebuild dreams

'I learned about suffering with dignity from the Japanese'

(Hong Kong) Sunday Morning Post Feb. 19. 1995

From CAROL HUI in Tokyo

CHANG Ge-li considers himself luckier than most of the other Chinese students in Kobe. After all, he not only survived the 7.2 Richter scale earthquake, but had friends who helped him out after the disaster.

Just one month ago, Mr Chang thought his dream of getting a foreign education was crumbling beneath his feet. But now the 23-year-old is optimistic.

Many others were not so fortunate. The language barrier, the housing shortage and not having family exacerbated the post-quake turmoil for many young Chinese, says Mr Chang.

A native of industrial Wuhan city, Mr Chang was an economics student at Kobe University. Asleep in his 220-square-metre apartment, he awoke barely in time to escape a falling beam.

Old, wooden buildings like the one he lived in provided the cheapest accommodation for foreign students but most such structures have collapsed or been burnt down.

The chance of winning the temporary housing lottery is slim as the 300,000 homeless compete for a few hundred spots.

Around the city, no alternative source of affordable housing is available. Mr Chang said he was paying 30,000 yen (HK$2,376) for his little alcove, but would have to dish out at least 80,000 yen for a similar-sized apartment in a modern, concrete building. He does not have that kind of money.

The mainland Chinese community, at 9,464, is the second-largest registered group of foreign residents in Kobe, compared to the third-largest group of 1,279 Americans.

Yet despite their large numbers, very few Chinese-speakers were available at the municipal offices offering assistance during the chaotic weeks following the earthquake. Those who do not speak Japanese suffered most.

For foreign students who experienced earthquake damage, the Kobe Student Youth Centre is offering 30,000 yen. But a document is needed to receive the money, and some Chinese were not able to fill out the forms.

Mr Chang, who understands Japanese fluently, tried to help his fellow Chinese. "It was difficult sometimes figuring who was Chinese and needed help. Some just kept silent. Some were not legal residents and feared deportation. It was awful for all of us," he recalled.

Mr Chang has nothing but respect for the way the Japanese handled themselves during the days of splintering pavements, raging fires and chilling rain.

"People in China would not have been so polite and kind. It would be 'me first, me first'. I learned about suffering with dignity from the Japanese," says Mr Chang.

Kobe is slowly rebuilding. However, with no accommodation or work available, Mr Chang opted for a move to Tokyo.

"There are many Chinese and Taiwanese living in this area and they are all friendly and sympathetic," he says.

Mr Chang has decided to work for a year to save money before returning to Kobe.